

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



甲状腺がん 発覚編 005：そもそも、病院の名前が。

2017年3月9日（木） 九州がんセンター

本日は晴天なり。

『九州がんセンター』

トキは思いました。「今後、この病院に出入りするからには、病院名からして、人にも隠し辛くなるな」。その初日、トモは勿論、両親まで付き添ってくれました。病院の広い待合室…



『圧倒的に年配者が多い。みんな、がんなんだ…』トキは、そう思いながら頭頸科へと向いました。

『頭頸科？生まれて初めて聞いた科だ』



トキには「？」ばかりです。頭頸科とは首から上で、脳、眼、歯以外の領域を診る科です。耳鼻咽喉科との違いは主にがんの治療を行うということです。頭頸科の待合室では、いかにも親の付き添いで来ている息子や娘なども、ちらほら。トキは、その逆です。

名前を呼ばれて診察室に入る際、『えっ、息子が患者で親が付き添い！？まだ若いのに…』と言わんばかりの周囲の視線をトキは痛いほど感じました。そんなトキの後に家族も続き、診察室へと入りました。診察は紹介された頭頸科の部長が行いました。髭の似合うダンディーな部長です。頸の周りをグリグリと触診した後、隣の部屋へ移動、エコー検査をしながら「うーん、ほら、見える？」

「右のリンパ節にも転移してるんだよね。」

『えっ、右にも！？』初耳でした。そして、「うーん、少しでも残してあげたいけど、無理かなあ」と部長は申し訳なさそうな目でトキの顔を覗きました。再び診察室にて「君の場合は甲状腺の全摘出、左右両リンパ節の郭清と色々やる事が多くてね、10時間くらいかかるかもね。でも手術の翌日には歩いて、食事もあるし、10日間くらいで退院できますよ。甲状腺の部分摘出なら、その後も

98%くらいの方は元気なだけで、君の場合は70%くらいかなあ、

まあ長い付き合いになるよ、とりあえず… **この先、10年は宜しく。**

あくまで統計ですが、部長が口にした数字によって、

「とりあえず、死ぬことはなさそうだ」と、ぼんやりとですが、トキも家族も安心しました。

そして、診察の終わりにトモが聞きました。

「山笠には出れますか？」

部長がどこまで「山笠に出る」という意味を理解されていたかは、わかりませんが、

「運動もやった方がいいし、大丈夫だと思いますよ」と、やんわりとした口調で答えました。

この日の夜は、トキがボーカル&ベースを務めている、スリーピースバンドの練習日でした。メンバー二人（ギターとドラムス）と、スタジオで共に時間を過ごしました。二人には事前に、ラインのメッセージで伝えていたことと、トキが明るく振舞ったこともあり、穏やかな時間を過ごすことができました。

⇒ 006 : 山笠！今年も参加出来る！